

# 潮干狩りに必要な道具は何ですか？

## question 1

Chapter

潮干狩りに行くまでの疑問

潮干狩りはおそらく近所の散歩を始めるのと同じくらい、特別の装備が必要ないアウトドアです。それでも楽しい潮干狩りをしようと思えば、必要なものがいくつかあります。

まず必要なものはクマデと貝網。クマデはもちろん干潟を掘ってアサリを見つけるためのもので、貝網は獲ったアサリを入れておくためのものです。

春のシーズンをのがすとクマデも貝網も意外と売っていないのですが、たいていの潮干狩り場には販売していますし、今は一年中ネットで買うこともできます。

潮干狩り場の状態にもよりますが、サンダルや長靴が必要な場合もあります。

また獲ったアサリを元気なまま帰るためには、保冷剤を入れたクーラーも必要です。

そして家に帰ってから砂を出させるための、持ち帰り用の海水を入れるペットボトル。タオルの他、服装は濡れるのを覚悟して着替え一式もあった方が良いでしょう。

春の日差しは弱々しく見えて紫外線は夏に匹敵しますから、麦わら帽子のようなつばの大きい帽子が最適です。実は麦わら帽子は夏にならないと店頭で並ばないので、手に入らない場合はなるべく、日差しを避けられるよう工夫してください。



クマデに貝網、そして持ち帰り用のクーラーとペットボトル

# 潮干狩りはどうして春だけなんですか？

question 5

潮の満ち引きは月の引力の影響を大きく受けます。太陽の影響も月の半分くらいですが受けています。そして月と太陽の位置によって、潮が大きく引いて潮干狩りができるわけです。



ほとんど人のいない秋の海は究極の時差潮干狩り（海の公園）

春は干満差が大きい上に昼間に潮が引きやすく、特に大潮

と中潮は潮干狩りに絶好の潮となります。干潮の時間は西に行くほど遅れ、湾の奥なども遅れる傾向があります。

潮干狩りに適した日は大きく潮が引きますが、逆に川の流れるようにあっという間に満ちてくる日でもあります。海岸によっては危険な事もありますので、そんな海岸では引いて行く時に遊び、潮が満ちて来たら一緒に帰り始める事をお勧めします。

秋も干満差が大きい季節なのですが、残念ながら春とは逆に夜間に大きく潮が引きます。

それでも海岸によっては、9月や10月でも、潮干狩りができる日はだんだん限られてはきますが、少し水に浸かる覚悟があれば貝を獲る事は可能です。潮浸狩りにはなりません。

10月までできれば2月から始めると9ヶ月間潮干狩りができる事になります。もはや春の風物詩ではありませんね。そんな人が本当にいるのかというご質問には「居る」とお答えします。まあ、私の事なんです。

# 干潮のどのくらい前に 始めれば良いですか？

question 12

潮位の事を考えれば干潮の前後2時間ずつが潮干狩りには最適の時間となります。

しかし実際に潮干狩りをやってみると、潮が引いて行く時の方が圧倒的に干潟を掘りやすいのが分かります。



潮が引いて行く時には干潟の形状が分かりやすい

潮が引いて行く時には新しい干潟が次々と姿を現し、潮の引くのを追いかけるように、綺麗な干潟を掘りながら沖に進んで行くイメージです。干潟が姿を現す際には干潟の盛り上がった場所や、えぐれた場所など干潟の形状も分かりやすく、アサリのポイントを探すのにも役立ちます。

逆に潮が上げて来る時には、後ろから波に追い立てられるように、すでに掘り返された干潟を陸地に向かって戻らなければなりません。追いかけるよりは自然を追いかける方が、楽

# アサリの目とは何ですか？

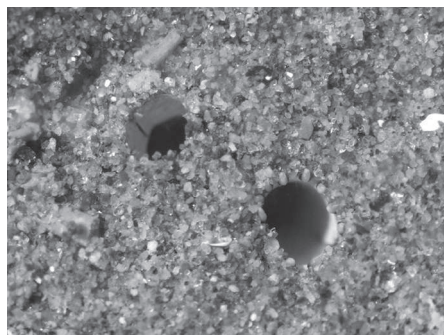
## question 19

持って帰ったアサリの砂抜きをしていると、アサリが足と水管を出しているのを見たことがある方も多いと思います。水管2本はセットになっていて先端部で二股に分かれています。大きい穴が入水管，細い方が出水管で，砂の上に水管を出している時には，海水を循環させて酸素とエサを取り込んでいます。

このアサリの水管が2本出ているところが，ちょうど目のように見える事から，これをアサリの目と呼んでいます。ちょっと近くを歩いたりして振動を与えると，水管を引っ込める様子が目をつむったように見えたりします。ウインクするように片側だけ目をつむる事もあり，本当に何かの生物の目のように見えます。



砂抜き中のアサリ。水管は途中で二股に分かれている



海水がある時にはアサリは2本ずつの水管を表面に出して呼吸をしている

砂抜きを上手くやるには重要なポイントがいくつかあります。

まず、一番重要なのは、アサリを元気なまま家に持ち帰るという事です。砂抜きも塩抜きもアサリにとっては大きなパワーを使う作業ですので、弱ってしまったアサリは砂抜きも塩抜きも十分にできなくなります。

それから、実は砂の9割はアサリの殻の外側の溝に入り込んでいます。これは砂抜きの前に流水でヌルが取れるまでガラガラ洗う事で解消できます。

次に、使う塩水はアサリの棲んでいた場所の海水が一番で、水が変わると馴染むまでに時間がかかります。

最後の一つは砂抜きの時間です。潮干狩りの初期でしたら3時間、暖かくなってきたら2時間程度で十分で、それ以上アサリを海水に浸けておいても水質が悪化してアサリが弱るだけです。

それでは詳しく解説していきます。アサリの持ち帰り方についてはすでに述べていますので、家に持って帰ってからの作業について説明していたします。



砂抜きには平らなトレイと網がセットになったものが使いやすい

# どのくらいの時間で砂は 抜けますか？

## question 39

アサリが棲んでいた場所の海水を使った場合で、関東では4、5月で3時間程度、6月以降は2時間程度で砂はあらかた抜けます。それ以上置いておいても海水が汚れてアサリが弱るだけです。時間が来たら水から上げてください。海水に余裕がある場合は2時間後に海水を新しいものに入れ替え再び2時間砂抜きをすると、より完全に砂を抜くことができます。

家で3%の塩水を作って砂抜きをする場合は、2時間では砂は完全には抜けにくいので、途中で新しい塩水に入れ替えてもう一度砂抜きをやると良いでしょう。

本物の海水と人工海水ではアサリの砂の抜け方が圧倒的に違います。潮干狩りの帰りはお土産が石と水になりますので大変なのは分かりますが、重い思いをしただけの効果はありますので頑張りましょう。

海水がどうしても重い場合には、小さなペットボトルで海水を持ち帰り、帰宅後に作った人工海水と混ぜ合わせる事で、人工海水だけの場合よりも、はるかに効果的な砂抜きが行えます。

砂抜きに失敗したアサリは汁物にしか使えませんので、調理の幅がほとんど無くなります。ボンゴレやアサリご飯、酒蒸し、アサリ焼きそばなどを食べたい方は、重くてもアサリの棲んでいた海の海水を持ち帰る事を強くお勧めします。

また、気温が低い時期や何らかの理由でアサリの身が痩せてしまう事があります。このようなアサリは殻の中に隙間ができてしまうため、砂が入り込みやすくなります。このような場合には砂を抜くのは難しくなりますので、その意味でも元気なアサリを持ち帰りましょう。

カタツムリが巻貝の仲間だというのは形を見ればすぐに分かります。でも、気持ちの悪いナメクジも巻貝の仲間なのです。

貝殻は退化して体の中に小さな名残が残っているだけですが、顔もあるし口も目もあります。

顔無しのアサリなどよりは、はるかに進化した貝なのです。

しかし、その貝が私の枕元を這っていたとしたら……。

そう、ナメクジは獲ってもいないのに、家に勝手に入って来る唯一の貝なのです。

風呂場に入って来るのは自主的に入って来たのですが、枕元のナメクジは明らかに違う。

だいたい、私の寝床の周りにはスズメやら蛾やらバッタから時にはゴキブリまで出現するのです。ヒヨドリが来た事もあるし、夏はセミが多いんですよ。

青大将の子供が枕元にいた事も一度だけあります。この時はどうする事もできず傍観するだけでした。最後に割り箸でつまみトイレに流しましたが、ヘビの体は予想外に軽くなかなか流れない事を発見しました。

実はこれ、もうやめてくれと言ってはいるのですが、ミャーといって返事だけは良い家の猫たちの仕業なのです。

彼らは特に野性的なわけではなく、花壇の花に付く実をカラスが食べに来るので、手すりの下に黒い靴下を吊るして置いたら、猫の方が怖がって窓から入って来れなくなったというくらい臆病な猫なのに。

臆病ではあっても猫は猫。弱い相手には、向かうところ敵なしのハンター。